

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	液体の超高速光電子分光による溶液化学反応の研究
研究代表者	鈴木 俊法（京都大学・大学院理学研究科・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>本研究は、応募者がこれまでに行ってきた光電子分光法を真空中の液体ビームと組み合わせ、これに高次真空紫外光を導入して、これまでに無かった水溶液中の溶質の反応過程を追跡しようという意欲に満ちたものである。しかし、実際に得られる情報が何を意味しているかは思い込みを排して、極めて客観的な判断が求められる。同時に、これまで先人達が積み重ねて来た水溶液中の化学反応理解を単に推し進めるだけでなく新しい理解の道が開かれる事が期待される。本研究は、挑戦的で先駆的な研究内容であり、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。なお、研究計画で導入を予定している装置は、大学の1研究室の装置としては巨大すぎるため、SPring8やSACLAなどを積極的に活用し、経費の妥当性を鑑みた研究計画を検討することが望まれる。</p>